

# ゆうふつ

登録番号：第3033号

登録年月日：平成4年1月16日

登録者：北海道(札幌市中央区北3  
条西6丁目)

育成者：峯岸恒弥 渡辺久昭  
松井文雄 村松裕司

柿崎昌志 小賀野隆一

成田秀雄 田中静幸

岩崎暁生

来 歴：収穫した株およびそれらの  
実生株のなかから選抜

## 特 性

### ■栽培特性

株は、高さが1.6m前後、幅2.2m前後と大きく、強勢で開張性である。枝は、濃褐色で太く、密に着生する。成葉の形は、楕円で中くらいの大きさである。花冠は、ロート形で濃いクリーム色である。発芽期は4月上中旬で、「在来1号」・「在来3号」などとほぼ同時期である。開花期は、5月中下旬と早く、果実の着色期も早い。収穫始めは6月末～7月上旬で、早生品種といえるが、収穫がだらだらと続き、他の品種に比べ収穫期間は長くなる。1新梢当たりの着花数は「在来1号」より少なめであるが、他の系統と比較すれば同等以上である。自家結実率は、約30%と既知の品種・系統の中でも最も高く、自然受粉による結実率も高い。このことにより、開花期の天候に左右されることが少なく、安定して高い収量を上げることができる。また、若齡株における枝梢数の増加が著しいので、収量の上昇速度が早いのが特長である。生理落果はほとんど認められないが、成熟果では果実と果柄の分離が容易なため、収穫が遅れると落果を生じやすい。繁殖は容易で、秋または春の休眠枝挿しにより容易に良苗を得ることができる。また、茎頂培養により挿し木より根の状態が良好な苗木を得ることができる。

### ■果実特性

1果重は1～1.5gと大きく、果形は銚子形あるいは長円形である。果色は、未熟のうちはやや赤みを帯びるが、成熟すると青黒色となる。果実の硬さは中くらいであるが、果皮は薄く果実の日持ち性はやや劣る。果汁の糖度(屈折計示度)は10～11%とやや低めで、酸度(滴定酸度)は2.2～2.5g/100mlと他の品種・系統より低い。総アスコルビン酸含量は、40～50mg/100gと中くらいである。果実中の種子の数が少なく、果皮に含まれる色素の量が多いことから、加工原料として適している。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

他の品種・系統と同様、特に病虫害抵抗性はないので、うどんこ病・アブラムシ・カイガラムシ・ケムシ類の防除が必要である。自家結実性は高いものの、結実の安定を限り果実肥大をよくするために、他の品種・系統を混植するようにする。本種は、株の勢いが強く開張性のため、株間をやや広めとし、10a当たり300本程度の栽植密度とする。

### ■地域適応性

耐寒性が強いいため北海道全域および本州高冷地において栽培が可能である。北海道各地で植栽がみられ、平成5年現在の栽培面積は約160haである。

(渡辺久昭)